

アンケート結果 起業に関するイメージについて(愛媛県調査)

令和6年10月
愛媛県経済労働部産業創出課

【調査目的】 EGFプログラム(愛媛県の創業支援プログラム)の一環として実施する若年層の起業家精神(アントレプレナーシップ)育成事業等の参考とするため、起業に関する意識やイメージを調査

【実施期間】 令和6年7月24日(水)～令和6年8月25日(日)

【実施方法】 県HP掲載及び県公式LINEでアンケートフォームを周知

【調査対象】 制限なし

【集計分類】 回答者の居住地、年代、性別、子どもの有無により分類

【回答件数】 408件

※10代は回答数が少なく、考察することが難しいことから参考としてグラフのみ示している。

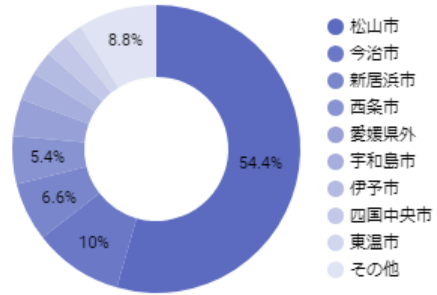
【結果概要】

- ①起業に対しては、全体の約90%が、「自分の好きなことを仕事にできる」、「新しいビジネスや事業を実現することができる」、「革新的な商品・サービスを通じて社会に貢献できる」といったポジティブなイメージを持っている。
- ②一方で、全体の約83%が失敗したときに再挑戦できる環境がないことに対する不安を抱えていることに加え、約95%が収入不安定、借入金の増加などの金銭的リスクが高いというイメージを持っている。
- ③起業に必要な知識については、全体の約73%が、「並外れた高い知識や能力が必要」とイメージしており、若い年齢層ほどその傾向が強い。
- ④自分の家族が起業を目指すことに関しては、全体の約76%が「応援したい」と回答している。
- ⑤実際に「起業した」割合は、全体の約14%で、起業した理由の上位は、「働き方を自分で選びたかったから」が最多で、「キャリアアップの手段の一つ」「事業アイデアを実現したかった」が続く。一方で、「革新的な商品開発などにより社会の役に立ちたかったから」や「会社を継ぐ形での起業(第二創業・事業承継)」を選択した方は少ない。
- ⑥起業を考えたものの具体的な起業予定がない割合は約39%に上り、起業していない理由の上位は、「起業に必要な知識・能力が十分でないと思うから」、「失敗したときのリスクが高く起業に踏み切れていないから」、「起業アイデアやプランはあるが、資金が不足しているから」といった回答が多くを占めた。
- ⑦起業に有効と考える支援については、「銀行からの借り入れ方法や法務関係などの起業知識を学ぶセミナー」、「ビジネスプランを構築するための伴走支援」、「起業プランを一から考えるワークショップ」といった回答が多くを占めた。

【属性】

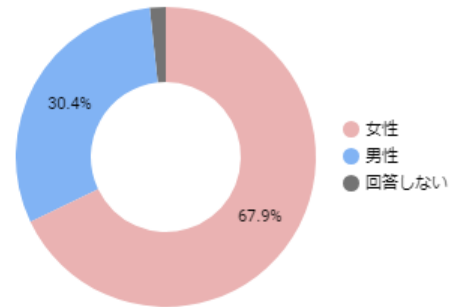
居住地	回答番号
1. 松山市	222
2. 今治市	41
3. 新居浜市	27
4. 西条市	22
5. 愛媛県外	17
6. 宇和島市	13
7. 伊予市	11
8. 四国中央市	11
9. 東温市	8
10. 松前町	7
11. 砥部町	7
12. 西予市	6
13. 大洲市	6
14. 内子町	4
15. 久万高原町	2
16. 八幡浜市	2
17. 上島町	1
18. 愛南町	1
総計	408

1 - 18 / 18 < >



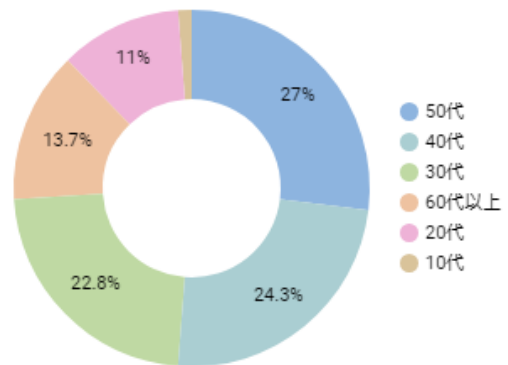
性別	回答番号
1. 女性	277
2. 男性	124
3. 回答しない	7
総計	408

1 - 3 / 3 < >

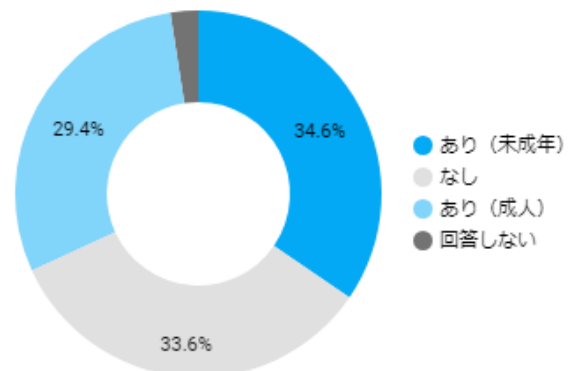


年代	回答番号
1. 60代以上	56
2. 50代	110
3. 40代	99
4. 30代	93
5. 20代	45
6. 10代	5
総計	408

1 - 6 / 6 < >



子どもの有無	回答番号
1. あり (未成年)	141
2. なし	137
3. あり (成人)	120
総計	408

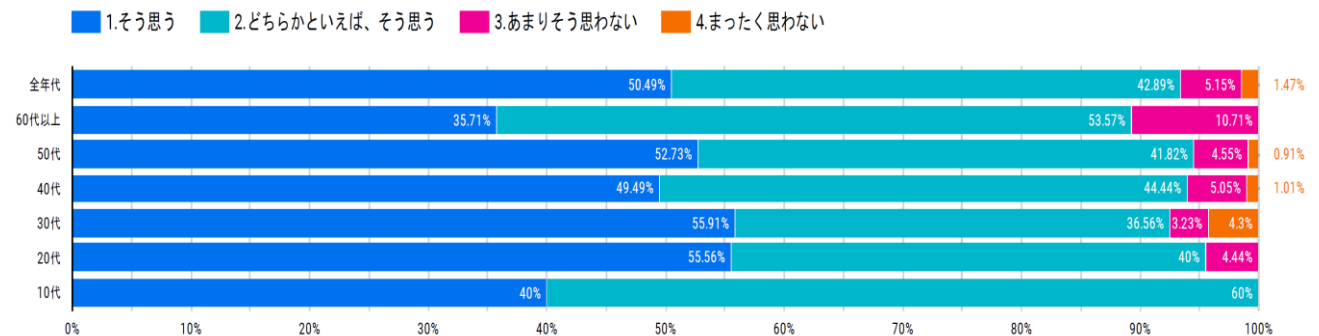


調査結果

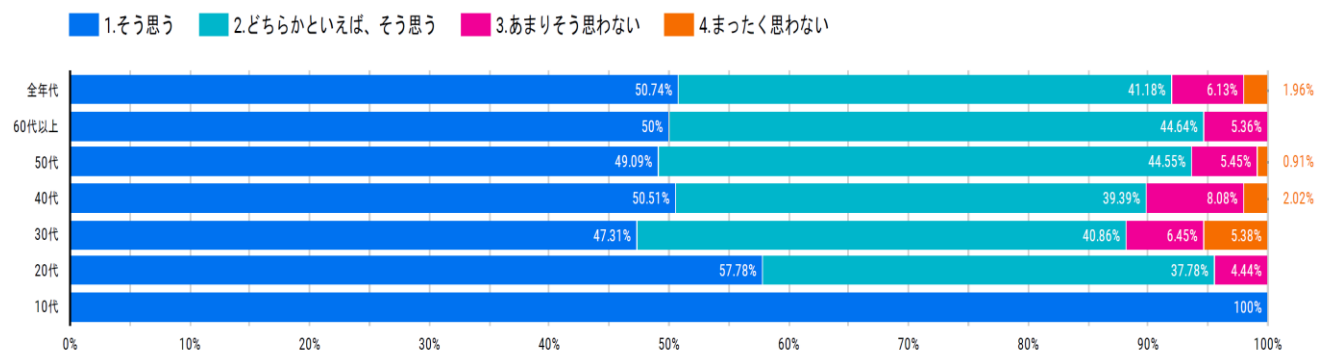
【起業に対するイメージについて】

起業に関する7つの項目について、自身のイメージを「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」「あまりそう思わない」「まったく思わない」の4段階で回答。

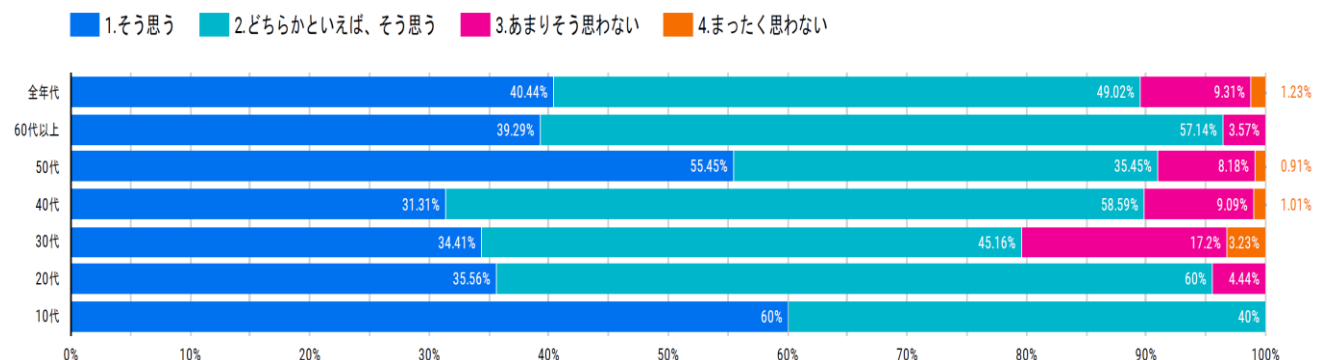
○自分の好きなことを仕事にできる



○新しい事業やビジネスを実現することができる

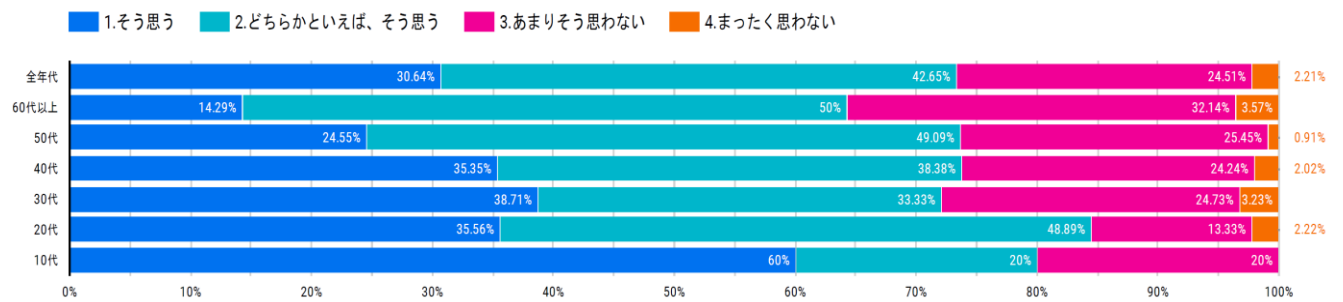


○革新的な商品・サービス開発を通じて、社会に貢献できる

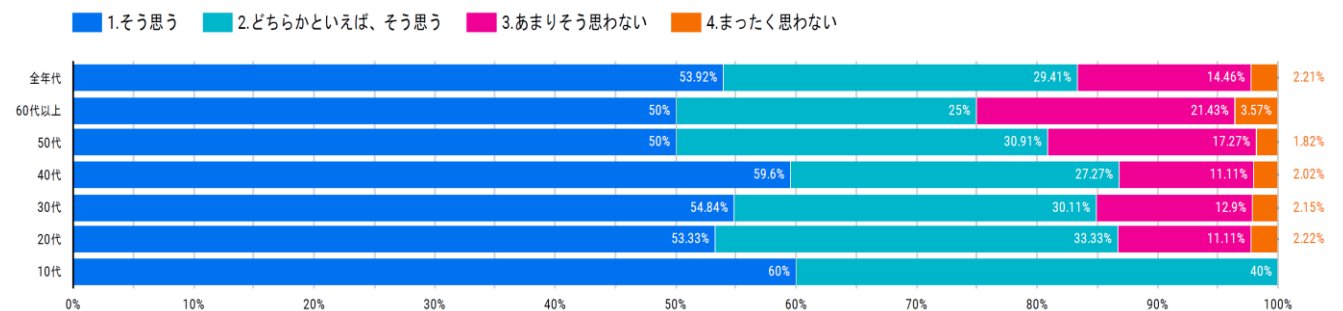


全体の約90%が、「自分の好きなことを仕事にできる」、「新しいビジネスや事業を実現することができる」、「革新的な商品・サービスを通じて社会に貢献できる」といったポジティブなイメージを持っている。そのような中、30代はほかの年代に比べてポジティブなイメージを持っている割合がやや低い。

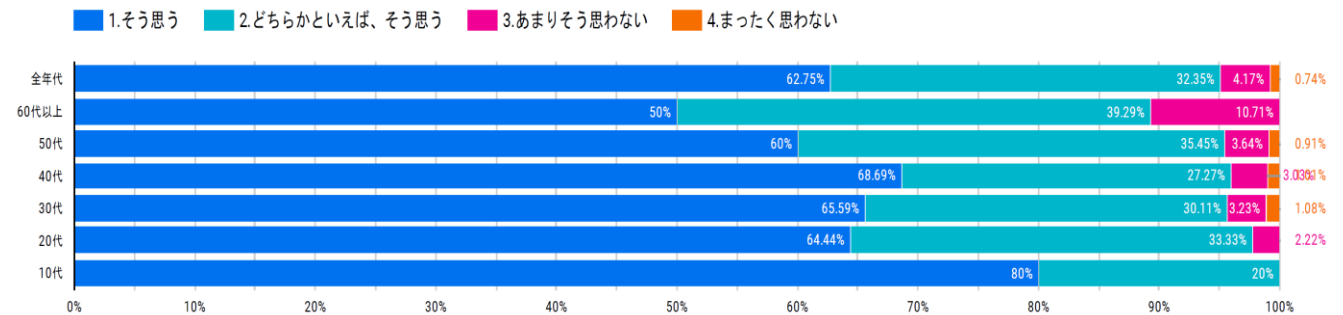
○起業するには並外れた高い知識や能力が必要だ



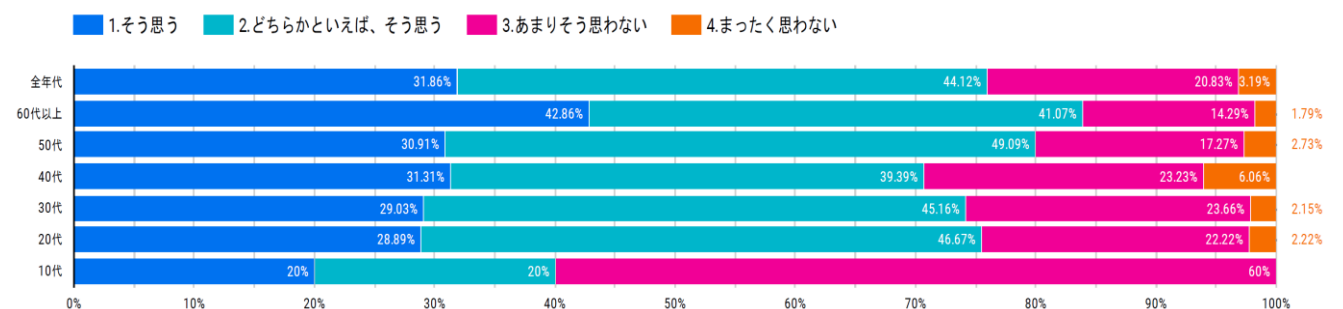
○起業で失敗したときに、再挑戦できる環境がなく不安である



○収入が不安定になる、または借入金が増えるなど金銭的リスクが高すぎる



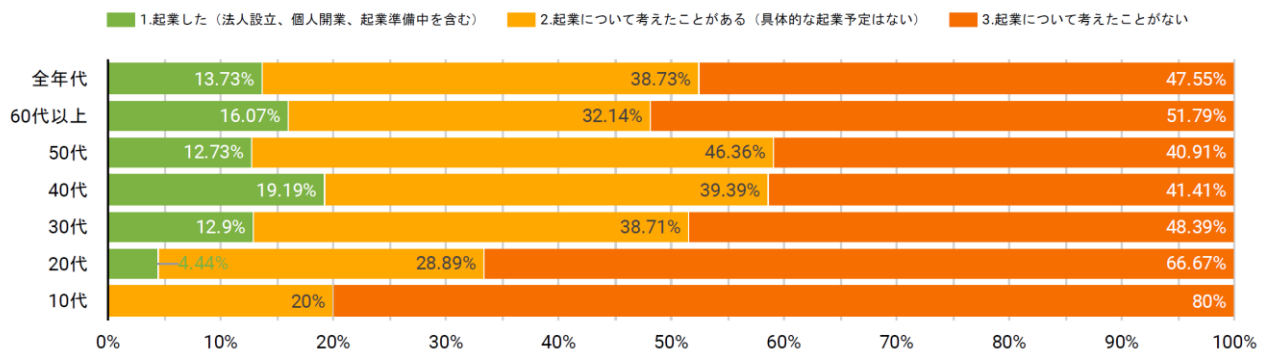
○自分の家族(親族)が起業を目指すという選択をした場合、応援したい



- ・全体の約73%が、「並外れた高い知識や能力が必要」とイメージしており、特に20代では、約84%とよりその傾向が強い。
- ・全体の約83%が失敗したときに再挑戦できる環境がないことに対する不安を抱えていることに加え、約95%が収入不安定、借入金の増加などの金銭的リスクが高すぎるというイメージを持っている。そのような中、60代以上は、ほかの年代に比べて不安等を抱えている割合がやや低い。
- ・自分の家族が起業を目指すことに関しては、全体の76%が「応援したい」と回答している。

【起業に向けた行動について】

これまでの起業・創業経験について、「起業した」「起業について考えたことがある(具体的な起業予定はない)」「起業について考えたことがない」の3つから選択。



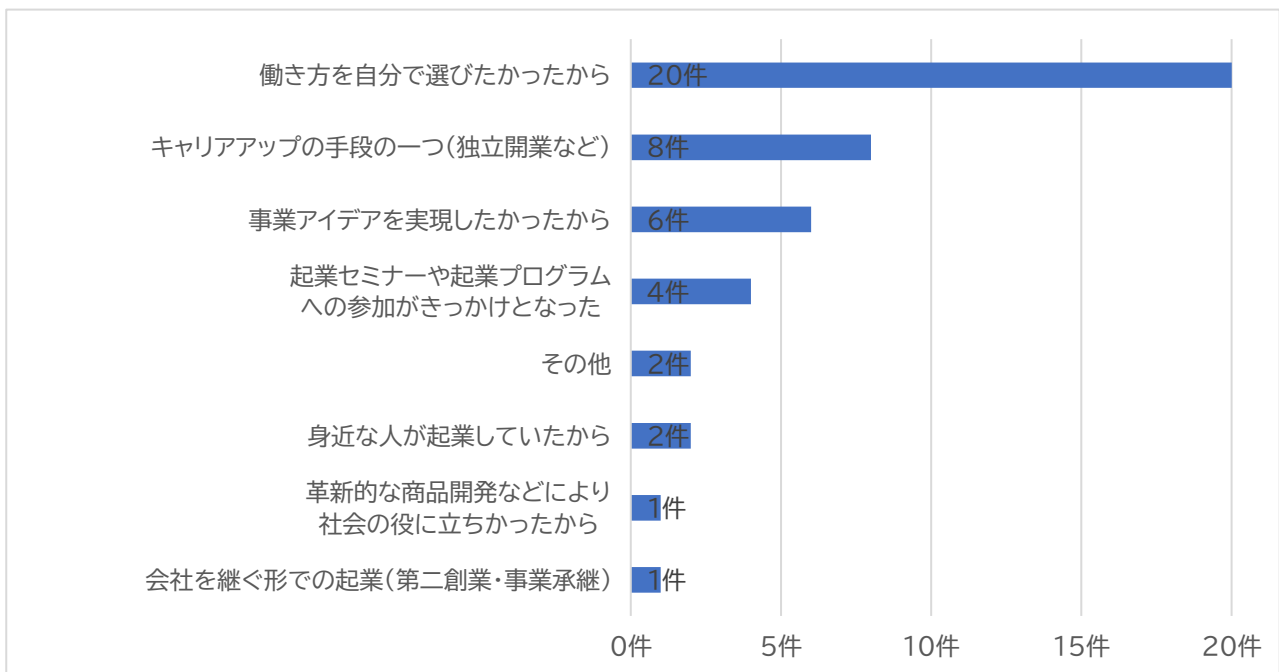
「起業した」は全体の約14%に留まるものの、「起業について考えたことがある」は全体の約39%に上り、「起業について考えたことがない」の約47%を若干上回っている。

【起業の動機について】

起業経験者(法人設立、個人開業、起業準備中含む)に対し、その理由を選択肢から回答。(複数回答:最大3つまで)

-起業した理由(選択肢)-

- 会社を継ぐ形での起業(第二創業・事業承継)
- キャリアアップの手段の一つ(独立開業など)
- 革新的な商品開発などにより社会の役に立ちかったから
- 起業セミナーや起業プログラムへの参加がきっかけとなった
- 身近な人が起業していたから
- 働き方を自分で選びたかったから
- 事業アイデアを実現したかったから



※「その他」の主な回答

- ・子どもに手がかり、在宅で働かないと外で働くことが難しいため。
- ・人生で一度くらいは起業してみたかったの。無理そうならすぐに止めればいい、くらいの軽い気持ち。

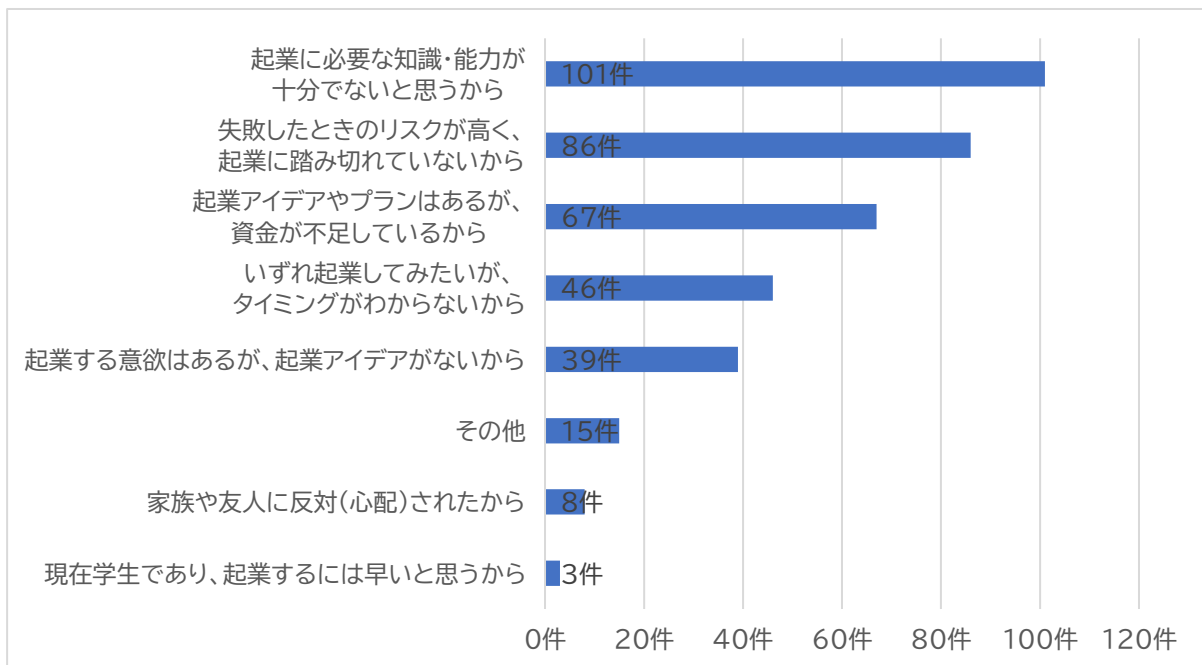
起業した理由は、「働き方を自分で選びたかったから」、「キャリアアップの手段の一つ(独立開業など)」、「事業アイデアを実現したかったから」の順に高い。一方で、「革新的な商品開発などにより社会の役に立ちたかったから」や「会社を継ぐ形での起業(第二創業・事業承継)」を選択した方は少ない。

【起業しなかった理由】

起業について考えたことがあるが、具体的な起業予定はない方に対し、その理由を選択肢から回答。(複数回答:最大3つまで)

-起業していない理由(選択肢)-

起業に必要な知識・能力が十分でないと思うから
起業する意欲はあるが、起業アイデアがないから
起業アイデアやプランはあるが、資金が不足しているから
失敗したときのリスクが高く起業に踏み切れていないから
家族や友人に反対(心配)されたから
いずれ起業してみたいが、タイミングがわからないから
現在学生であり、起業するには早いと思うから



※「その他」の主な回答

- ・人材確保に不安がある。
- ・子どもに手がかかる時期である。

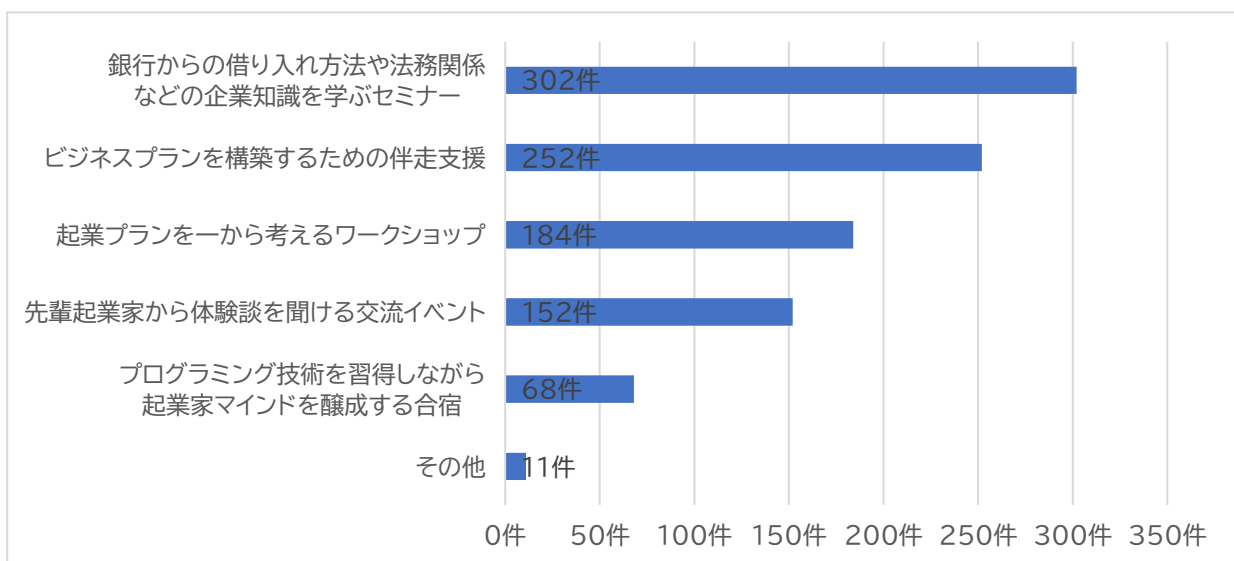
起業していない理由は、「起業に必要な知識・能力が十分でないと思うから」、「失敗したときのリスクが高く起業に踏み切れていないから」、「起業アイデアやプランはあるが、資金が不足しているから」の順に多い。

【起業に向けた支援】

起業する際に、どのような支援があれば良いと思うか、選択肢から回答。(複数回答:最大3つまで)

-起業する際にあるとよい支援(選択肢)-

起業プランを一から考えるワークショップ
ビジネスプランを構築するための伴走支援
プログラミング技術を習得しながら起業家マインドを醸成する合宿
先輩起業家から体験談を聞ける交流イベント(訪問ツアーや交流会など)
銀行からの借り入れ方法や法務関係などの起業知識を学ぶセミナー



※「その他」の主な回答

- ・逆に失敗したらどうなるかも知りたい。
- ・起業後のサポート期間がある。

起業する際にあるとよい支援は、「銀行からの借り入れ方法や法務関係などの企業知識を学ぶセミナー」、「ビジネスプランを構築するための伴走支援」、「起業プランを一から考えるワークショップ」の順に多い。

考察(まとめ)

- ・「起業した」、「起業について考えたことがある」と回答した割合は、若い年代ほど低い。これは、若い年代ほど起業するには高い知識や能力が必要だというイメージを持っていることと関連していると思われる。すなわち、若い年代ほど起業に対して知識・能力の点で高いハードルを感じているため、起業に必要な知識・能力を事業アイデア、市場分析、広報等に分解して紹介し、専門性の高い業務を外部委託する方法の提示や、起業について疑似体験するワークショップの実施等により、心理的なハードルを下げることで、若い年代の起業支援に有効と考えられる。
- ・全年代を通じて、起業に対し、失敗したときに再挑戦できる環境がないというイメージを持っており、挑戦そのものを評価する機運醸成や、失敗した際に助け合うことができるコミュニティ形成が効果的であると考えられる。
- ・全年代を通じて、起業に対し、金銭的リスクが高いというイメージを持っており、事業承継や、副業としての起業等、リスクを抑えた起業スタイルについて周知することが効果的と考えられる。
- ・起業した理由は一人ひとり異なるが、ライフステージに応じて様々な起業動機が考えられることから、起業家のロールモデルとなるよう多様な起業ストーリーを提示し、先輩起業家等との交流を促進していくことが望ましい。
- ・起業する際にあるとよい支援では、金融・法務知識を学べるセミナーやビジネスプランへの伴走支援の回答が多く、現在、金融機関や商工支援機関・自治体等が実施している事業をより積極的に周知していくことが望ましい。